

オリパラのレガシー編

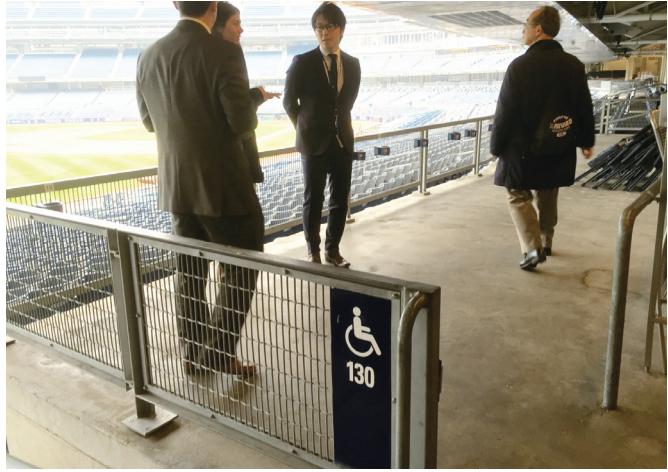
Hayasaka Report 2016.8

東京都議会議員

早坂よしひろレポート

発行

都議会
自民党



▲ヤンキースタジアムの「同伴者席」は、車いすの真横に



▲東京ドームの「介助者席」は、車いすの真後ろに

早坂 実際に両方を見てみる
実際に両方を見てみると、車いす席は12席です。一方で、ニューヨークのヤンキースタジアムは5万席のうち、車いす席は1000席。障害者に対する意識がまったく違います。このお話をしたら「自分の目で確かめてくる」とおっしゃって、すぐに両球場まで調査に行つた早坂さんの行動力には驚きました。アメリカまで本当に行つた人は初めてです！（笑）

と、量の問題だけでなく、質の問題もあることに気付きました。東京ドームの介助者席は、車いす席の真後ろです。一方で、ヤンキースタジアムの同伴者席は真横。映画でもコンサートでも、恋人や家族、友人は、必ず隣に座ります。つまり一緒にいる人が「同伴者」なのか、単なる「介助者」なのか。この認識の違いはとても大きいです。

佐藤 早坂さん、よろしくお願いします。
早坂 佐藤さんとお友達になって一杯飲みに誘おうと思つた時、車いすで入れるお店が極めて限られていることに気付きました。階段やトイレ、テーブル

佐藤 私は野球観戦が大好きなのです。東京ドームは全部

ナショナルの佐藤聰さんに、オリパラのレガシーについてお話を伺います。

早坂

本日は障害者インター

佐藤 そうですね。車いすだ

社会に残る有形・無形の遺産を「レガシー」と呼ぶ。
そこで2020年大会を目指すレガシーについて報告する。

2020年大会がもたらす最大のレガシーは、共生社会の実現だと考えています。

〈プロフィール〉

- 佐藤 聰（さとう さとし）
- 障害者インターナショナル（DPI）日本会議事務局長。
- 昭和42年、新潟県生まれ。
- 9歳の時、遊んでいて背中を強打し、車いす生活に。



佐藤聰



早坂よしひろ

その最高の瞬間に、 車いすの我々は視線を遮られ、 とてもさびしい思いをするのです。

佐藤 重要な指摘ですね。

もうひとつ、サイトライン（視線）という考え方があります。野球でもサッカーでも、点が入ると観客は立ち上がります。その最高の瞬間に、車いすの我々は視線を遮られ、とてもさびしい思いをするのです。そこで観客は立ち上がる、ということを前提に、車いす席は初めからかさ上げしておくというのが、サイトラインの考え方です。



▲日本武道館では今後、障害者当事者の意見を取り入れた改修が行われる

早坂 これは当事者でないと、なかなかわからないことです。過日は佐藤さんから日本武道館を紹介してと言わされ、一緒に訪問しました。

64年大会の際に建設された古い建物です。今回の2020年大会では、柔道と空手道の会場になります。1964年当時、バリアフリーという考え方はありませんでした。そこで近々にバリアフリ

佐藤 日本武道館は1964年大会の際に建設されました。過日は佐藤さんから日本武道館を紹介してと言わされ、一緒に訪問しました。

64年大会の際に建設された古い建物です。今回の2020年大会では、柔道と空手道の会場になります。1964年当時、バリアフリーとい

う考え方は全くありませんでした。そこで近々にバリアフリ

早坂 お役に立てて、光榮に存じます。

佐藤 早坂さんは「ミスター

防災」と伺っていますが、オリンピックにも、とても熱心に取り組まれています。

前、私が東京都議会に当選して初めて出席した本会議で、当時の石原知事が「東京はオリパラに立候補する」と高々と宣言し、心から感激しましたからです。この時の立候補宣言は2011年大会のものです

が、いよいよ2020年東京大会が4年後に迫りました。

佐藤 早坂さんが立候補宣言は2011年大会のものです

が、いよいよ2020年東京大会が4年後に迫りました。

早坂 今から11年前、私が東京都議会に当選して初めて出席した本会議で、当時の石原知事が「東京はオリパラに立候補する」と高々と宣言し、心から感激しましたからです。この時の立候補宣言は2011年大会のものです

が、いよいよ2020年東京大会が4年後に迫りました。

佐藤 例ええばエレベーターが設置されると、それで助かるのは障害者だけではありません。ベビーカーの若いお父さんお母さん、ご高齢の方、大きな荷物を持つた方など、本当に多くの方々です。こういう、一見オリパラとは無縁な取り組みも、実は共生社会の実現という素晴らしいレガシーにながつているのだと思います。

早坂 お話を伺って、2020年大会の成功とその後の発展を、改めて強く認識しました。本日はありがとうございました。

常々おっしゃっているように、オリンピックはその国の歴史に大きな影響を与えます。東海道新幹線や首都高速道路など、今日私たちが利用しているインフラは、50年前のオリンピックのレガシーです。

早坂 はい、そして2020年大会がもたらす最大のレガシーは、共生社会の実現だと考えています。2020年大会をきっかけに、障害者・高齢者・女性など、これまで弱い立場にあった方が存分に活躍できる社会を築きたいと思います。

佐藤 例えればエレベーターが設置されると、それで助かるのは障害者だけではありません。ベビーカーの若いお父さんお母さん、ご高齢の方、大きな荷物を持つた方など、本当に多くの方々です。こういう、一見オリパラとは無縁な取り組みも、実は共生社会の実現という素晴らしいレガシーにながつているのだと思います。

早坂 お話を伺って、2020年大会の成功とその後の発展を、改めて強く認識しました。本日はありがとうございました。



プロフィール

- 昭和43年 荻窪の東京衛生病院生まれ（47才）
- 西田幼・西田小・松渕中卒業、大検合格
- 立教大学法学部（北岡伸一ゼミ）卒業
- 働きながら明治大学公共政策大学院（青山俊ゼミ）修了
- 防災情報機構NPO法人事務局次長として全国講演
- 平成17年 東京都議会議員に初当選（現在3期目）
- 東京都議会防災議連幹事・前・都議会予算特別委員長
- 明治大学客員研究員・日本AED財団常務理事
- <災害調査>
米国 ハリケーンカトリーナ、中国 四川大地震 他、国内外多数。
- 東日本大震災では発災当日に被災地入りし、支援活動を行う。

バックナンバーをご希望の方はご一報ください。

〈2011年3月号〉高齢者の住まい

編

〈2012年1月号〉緩和医療

編

〈2012年3月号〉被災地の復興

編

〈2012年7月号〉オリンピック

編

〈2013年3月号〉首都直下地震

編

〈2013年5月号〉ロボット手術

編

〈2014年9月号〉男の子育て

編

〈2016年3月号〉AED(突然死救命)

編

東邦大学病院医師
大津秀一さん

明治大学大学院教授
青山俊さん

オリンピック写真家
岸本健さん

金沢大学心肺総合外科教授
渡辺剛さん

文京区長
成澤広修さん

立川医院院長
三田村秀雄さん

皆さまのご意見をお寄せ下さい。